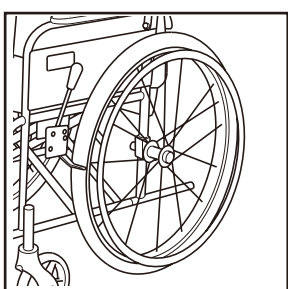
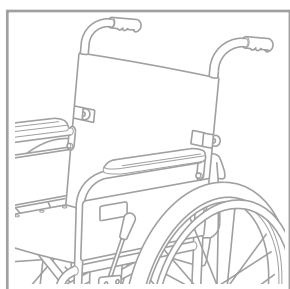
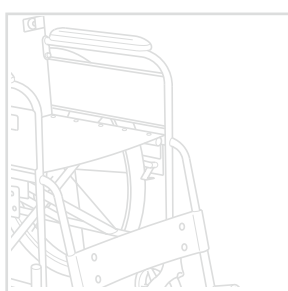
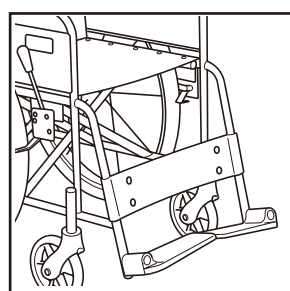
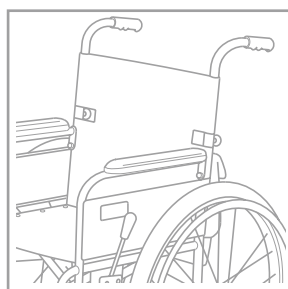
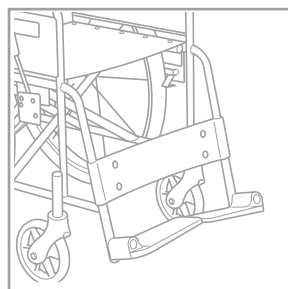
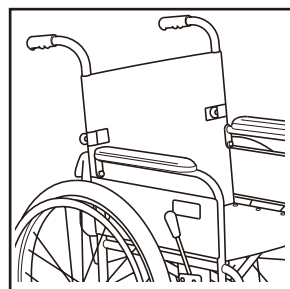


車いす

取扱説明書

より快適に車いすをお使いいただくために



はじめに

この度は、弊社製品をお買い求め頂き、誠にありがとうございます。ご使用前に本書を必ずお読みになり、十分に理解をした上でお使いください。また、本書はいつでもご覧になれる所に大切に保管しておいてください。使用者の状態、環境の変化に合わせて、必要なときに本書をお読みください。

目次

安全上のご注意	2
各部のなまえ	3
使いかた	4
車いすの開きかた／たたみかた	4
乗り降りのしかた	5
各部の調節のしかた	6
フットサポートの高さ調節	6
使用上のご注意	7
保守・点検	7
走行上のご注意	裏表紙
段の上りかた	裏表紙
段の下りかた	裏表紙

※本書で使用しているイラストは、ご購入いただいた製品と異なる場合があります。

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。この取扱説明書では、お使いになる人や他の人への危害・物的損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次の表示と記号を使って説明しています。表示と記号の意味をよく理解したうえで本文をお読みください。

【表示の意味】

- | | |
|---|---|
|  危険 | この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが予想される内容を示しています。 |
|  警告 | この表示を無視して誤った取り扱いをすると、重傷を負う可能性が予想される内容を示しています。 |
|  注意 | この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性および物的障害の発生が想定される内容を示しています。 |

【記号の意味】

- | | |
|--|---|
|  警告・注意を促す内容があることを告げるものです。 |  禁止の行為であることを告げるものです。 |
|  行為を強制したり指示する内容を告げるものです。 | |

危険

- | | | |
|--|---|--|
|  スピードを出さないでください。
スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。 |  |  自走用であっても自力で操作不可能な坂道では、介助者を伴ってください。 |
|  急な下り坂で介助するときには、後ろ向きにゆっくり下りてください。また、制動用ブレーキレバーを使いスピードを落としてください。 | |  乗り降りの際にはフットサポートに乗らないでください。
駆動輪（主輪）が浮き上がり、転倒する恐れがあります。 |
|  車いすを駐車するときには、水平で平坦な場所に駐車してください。
坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。 | |  エスカレーター（車いす対応エスカレーター除く）や、傾斜のある動く歩道（オートスロープ）でのご使用は絶対に行わないでください。
転倒や転落など重大な事故やけがにつながる恐れがあります。また、車いす対応エスカレーターをご利用の際は必ず施設管理者の指示に従ってください。 |

警告

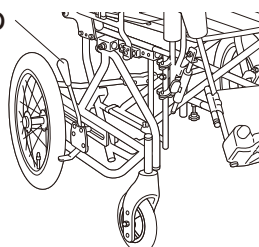
- | | |
|--|--|
|  乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。
ブレーキがかかっていないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。 |  各部を調整する場合は平坦な場所で行ってください。
車いすが動きだし、事故やけがにつながる恐れがあります。 |
|  乗り降りの際に、上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。
けがをする恐れがあります。 |  手押しハンドル、本体フレームおよびバックサポートのポケットに重いものを吊り下げたり、入れたりしないでください。
過度の荷物はバランスを崩し、転倒する恐れがあります。 |

警告



乗り降りの際には駐車用ブレーキレバーに体重をかけないでください。レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。

駐車用ブレーキのレバー



車いすの分解、フレーム構造を変更するような改造は行わないでください。製品の強度や耐久性が損なわれ、転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。



後方へ進行や旋回をするときに、背折れジョイントが障害物に当たらないよう注意してください。

背折れジョイントのロックが外れて後方で姿勢を崩す恐れがあります。



認知症など、自力で操作できない使用者が利用する場合は、介助者を伴ってください。車いすが思わぬ方向に動き、転倒・転落など事故やけがにつながる恐れがあります。



クッションフロアやフローリングなど床面の材質によっては、ハイポリマータイヤとの相性により車いすを走行させると汚れが付着したり、床面を傷つける場合があります。十分注意してご利用ください。

注意



この車いすは一人用です。二人以上の乗車や、目的以外での使用はしないでください。



フレームに最大体重(積載物も含む)が記載されている場合は、体重制限を守って使用してください。



座シートやアームサポートのパイプを握って車いすの開閉作業を絶対に行わないでください。手指や爪、衣服が巻き込まれてけがをする恐れがあります。



走行中、足がフットサポートから落ちないようにしてください。



操作中に異常な音や振動が発生したら、即時に使用を中止してください。事故やけがにつながる恐れがあります。



フットサポートを足で上げる場合は、素足では行わないでください。けがをする恐れがあります。



フットサポートの下には足を入れないでください。足を地面でこすったり、フットサポートや前輪キャスタなどに足をぶつけてけがをする恐れがあります。



使用する前に駆動輪(主輪)・キャスタ・駐車用ブレーキ等のネジを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。



フットサポート下面は地上より50mm以上あげた状態で使用してください。



段差のあるところを上り下りするときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり上り下りしてください。車いすの破損や故障の原因となります。



車いすを自動車に載せる際および自動車から降ろす際は、車いすに大きな衝撃を与えないよう、ゆっくりと静かに降ろしてください。車いすの破損や故障の原因となります。



走行中、身体を乗り出さないでください。走行の安全を損ない危険です。



シンナー、ベンジン等の溶剤は、使用しないでください。製品を傷める恐れがあります。

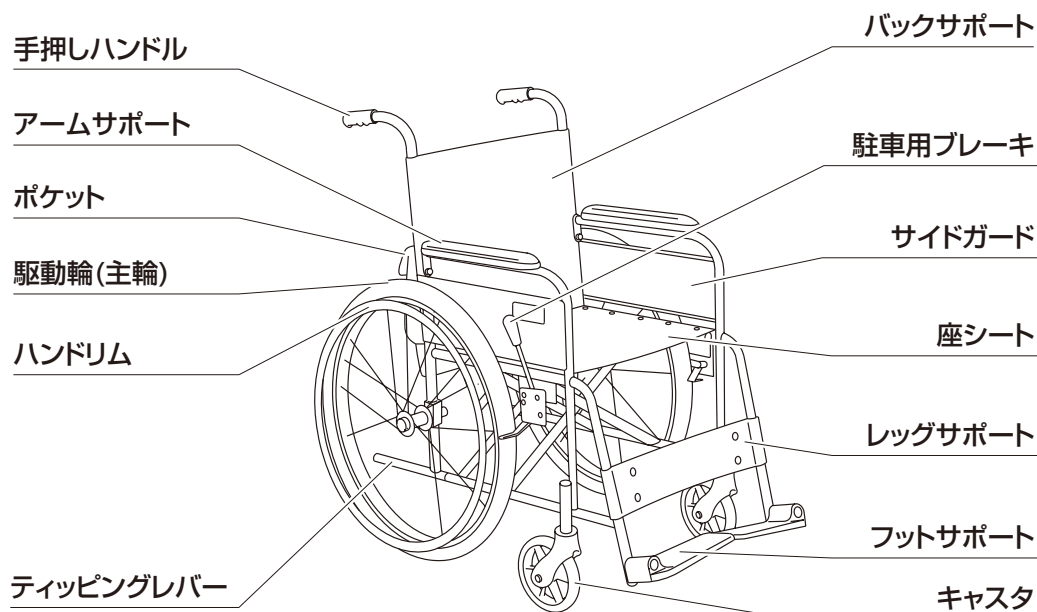


暖房器具にタイヤを近づけないでください。タイヤの表面が溶けたり破損する場合があります。破損した場合は乗車をやめて必ず修理してください。



各部のなまえ

下図は標準仕様車です。車いすによっては、装備や形状が異なります。



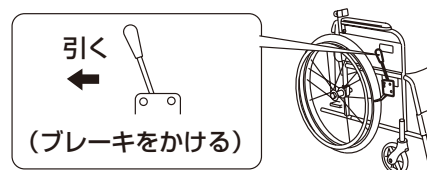
使いかた

ブレーキのかけかた

⚠ 警告	・ 乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。ブレーキがかかっているないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。駐車用ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。 ・ 駐車用ブレーキレバーに体重をかけないでください。レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。 ・ 車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。 ・ タイヤの摩耗や劣化に注意してください。 タイヤが摩耗や劣化すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。ブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。 ・ 走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。転倒などの事故につながる恐れがあります。
-------------	---

● 駐車用ブレーキのかけかた

介助者もしくは使用者が、左右のブレーキレバーを手前に引いてかけます。
ブレーキレバーを前方に戻すと解除されます。



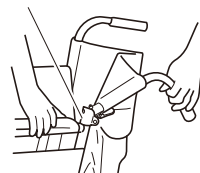
車いすの開きかた／たたみかた

⚠ 注意	・ 座シートやアームサポートのパイプを握って車いすの開閉操作を絶対に行わないでください。手指や爪、衣服が巻き込まれてけがをする恐れがあります。 ・ 必ず駐車用ブレーキをかけて操作を行ってください。 ・ 背折れジョイントの開口部に手や指を近づけないでください。 ・ 車いすを開くときは各部品が可動しますので、手をはさまないように注意してください。 ・ 背折れジョイントを上げる際は、開口部にシートを巻き込まないように注意してください。ジョイントが完全にロックされない恐れがあります。また、シートの破損につながる恐れがあります。 ・ 後方へ進行や旋回をするときに、背折れジョイントが障害物に当たらないように注意してください。背折れジョイントのロックが外れて後方で姿勢をくずす恐れがあります。
-------------	--

● 開きかた

- 1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2 手押しハンドルを両側とも上げます。
*背折れジョイントが完全にロックされるまで上げてください。
*このとき、背折れジョイントの開口部に手や指を近づけないでください。手や指をはさんでけがをする恐れがあります。

背折れジョイント

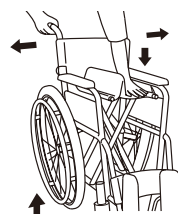


手押しハンドルを
両側とも上げる



手をはさむおそれあり

- 3 手押しハンドルを持って、軽く左右に開きます。
- 4 片側の駆動輪（主輪）を少し浮かせて、その状態を保ちます。
- 5 駆動輪（主輪）を浮かせていない側の座シートの表面を、手の平で押して開きます。
*シートパイプを握らないでください。
*シートパイプの中央付近を押し、先端は押さないでください。



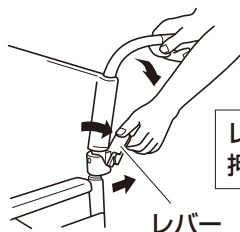
片側の駆動輪（主輪）を浮かせる



シートパイプ

● たたみかた

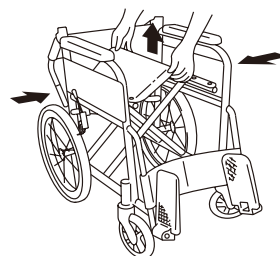
- 1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2 図のように、手押しハンドルを両側とも下げます。



レバーを引き
押し手を下げる

- 3 フットサポートを両側とも上げます。
- 4 座のシートの前後を持ち上げて、シートパイプを引き寄せます。

- 5 左右のアームサポートを外側から内側に押し、座のシートを折りたたみます。
*背アウターシート、座クッションを取り外して折りたたむとより小さくたたむことができます。
*車いすをたたむときは各部品が可動しますので、手をはさまないように注意してください。



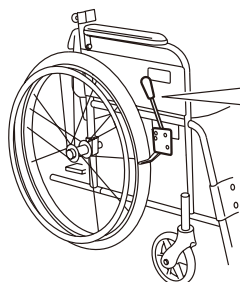
乗り降りのしかた

⚠ 警告

- ・乗り降り時は、必ず駐車用ブレーキをかけてください。車いすが動きだし大変危険です。
- ・車いすに乗り移る際、フットサポートの上には乗らないでください。転倒し、けがをする恐れがあります。
- ・上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。けがをする恐れがあります。

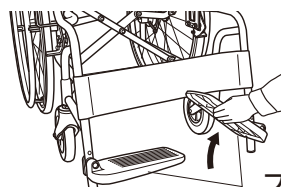
● 乗りかた

- 1 両輪の駐車用ブレーキをかけます。



引く
(ブレーキをかける)

- 2 フットサポートを両側とも上げます。
*フットサポートの上には乗らないでください。転倒し、けがをするおそれがあります。
*上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。けがをするおそれがあります。



フットサポート

- 3** 車いすをしっかりと保持しながら、ゆっくり乗り移ります。

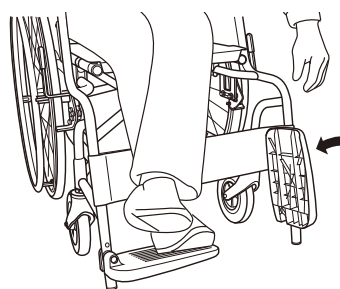


車いすを保持し
腰を浮かせる



ゆっくり乗り移る

- 4** フットサポートを降ろして両足を乗せます。



● 降りかた

「乗りかた」と逆の要領で行なってください。

各部の調節のしかた



警告

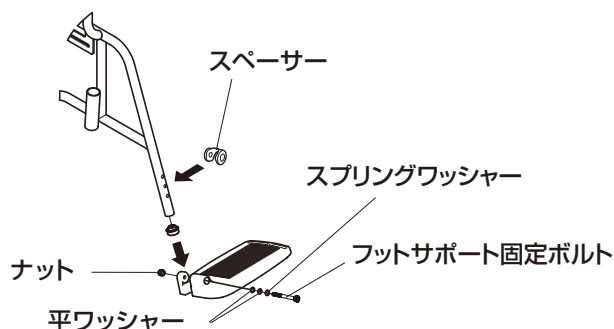
各部の調節は必ず駐車用ブレーキをかけてから、平坦な場所で行なってください。

フットサポートの高さ調節

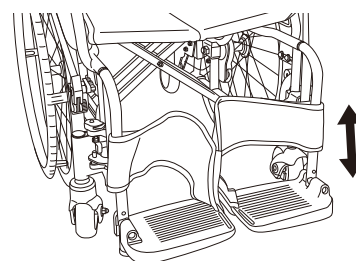
フットサポートは20mm間隔で3段階の高さに調節することができます。

使用する工具：5mm六角レンチ（締め付けトルク：1.5～2.0N・m）

- 1** 両輪の駐車用ブレーキをかけます。
- 2** フットサポートを下ろした状態で、フットサポート固定ボルトを外します。



- 3** 脚の長さに合わせてフットサポートの高さを調節します。



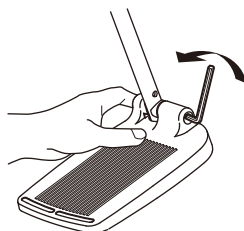
- 4** 希望の高さの穴を決めたら、固定ボルトを差し込み、ナットと共に締め付けて固定します。

*反対側も同じ高さに調節してください。

フットサポート調節のコツ

取り外すとき

- 1** 六角レンチ等を使ってフットサポート固定ボルトを反時計回りに回します。反対側からナットが飛び出してきたら、ナットを指で押さえておきます。



- 2** フットサポート固定ボルトが空回りをはじめたら、車いすを傾けてボルトとナットを取り外します。

取り付けるとき

- フットサポート固定ボルトの位置合わせをするときは、穴をのぞいてそこにボルトを挿入してください。
- フットサポートは、片手で回転できるくらいの固さを目安に取り付けてください。このとき、フットサポート固定ボルトを締めすぎないように注意してください。



注意

ボルトがナット側に突き出ているときは、ナットを指で押さえているとけがをする恐れがありますのでご注意ください。

使用上のご注意

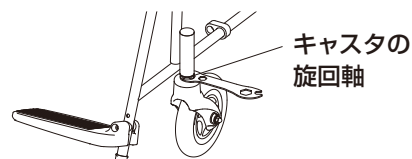
保守・点検

乗車前には必ず下記の事項を点検・整備し、常に安全な状態で使用してください。

* 修理・調整は必ず販売店へ依頼してください。

⚠ 警告

キャストの旋回軸やキャスト・駆動輪(主輪)・ブレーキ・各調節部等は定期的に点検してください。ゆるんでいるときは増し締めをしてください。



- ・車いすは熱気、湿気に弱いいため、湿気の多い所、外部、自動車内での長期放置や、水のかかる場所、直射日光の当たる場所には放置しないでください。
- ・使用者の脚の長さに合わせて、フットサポートを適切な高さに調節してください。(地上より50mm以上あげてください。)

● 消耗品・交換部品の確認

⚠ 注意

交換時期を過ぎての使用は、転落、転倒、衝突などの事故につながる恐れがあります。

- ・それぞれの部品が交換時期になったときは、お早めに交換してください。
新しい部品に交換する際は、お買上げの販売店へご連絡ください。
- ・ハイポリマータイヤは、表面に溝がない状態やひび割れがみられる状態で使用を続けると、タイヤ内部に水分が浸食して加水分解を起こし、タイヤの劣化が早まります。お早めに交換してください。

消耗品・交換部品

品 名	交 換 時 期
駆動輪(主輪)	タイヤの表面に溝がなくなったとき。 タイヤにひび割れなどが見られる場合。
キャスト	表面の摩耗が著しいとき。しっかり締め付けても車輪ががたつくとき。
シート	ほつれ、切れ目が発生したとき。 ひどく汚れたとき。 面ファスナーの接着が弱くなったとき。
ワイヤー	ワイヤーにほつれ、錆が発生したとき。

お手入れ・保管について

● フレームのお手入れ

- ・フレームの汚れは、タオルかスポンジに中性洗剤を含ませて拭き取ってください。拭き取った後は、乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。
- ・水などがかった場合は、乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。

● シートのお手入れ

- ・シートが汚れた場合は、中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取った後、水で濡らした布で洗剤を拭き取り、その後乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。
- ・面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。

● アームサポート、グリップ、サイドガード等の樹脂部品のお手入れ

樹脂部品の汚れは中性洗剤で落としてください。

⚠ 注意

- ・シンナー、ベンジン等の溶剤は使用しないでください。
製品を傷める恐れがあります。
- ・車いすや各部品を乾かすときは、直射日光をさけて陰干してください。

● タイヤのお手入れ

- ・タイヤやリムが汚れた場合は、中性洗剤を使用して擦り洗いをしてください。水に濡れた後は、乾いた布で水分を拭き取りよく乾かしてください。

● 保管・収納について

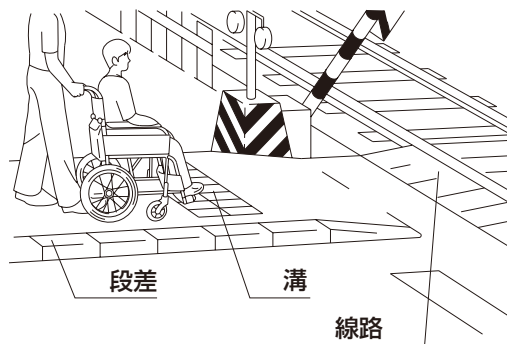
- ・収納スペースが少ないときは、座シート、バックサポートを折りたたんで保管してください。
- ・錆やタイヤのパンク、劣化を避けるため、湿気の高い場所や室温の上がる場所、直射日光のあたる場所には保管しないでください。

⚠ 注意

折りたたんだ車いすを持ち上げる際、アームサポートなどの樹脂部分のみを持たないでください。破損する恐れがあります。

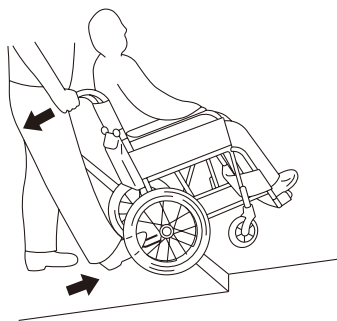
走行上のご注意

- ・車いすは歩行者として扱われています。車道を通らず、必ず歩道を通ってください。
- ・自走用であっても自力での操作に不安がある場合は、介助者を伴ってください。
- ・歩道の段差や凹凸のある路面を走行するときは、前のめりにならないよう充分注意してください。
- ・溝や踏切の線路による落輪、キャストのはさみ込みには充分注意してください。
- ・踏切を通過するときは、まわりの安全を確認した上で、停車せずに通過してください。
- ・傾斜地ではスピードが出やすいため、走行には充分注意してください。
- ・クッションフロアやフローリングなど床面の材質によっては、ハイボリマータイヤとの相性により車いすを走行させると汚れが付着したり、床面を傷つける場合があります。十分注意してご利用ください。
- ・エスカレーター（車いす対応エスカレーターは除く）や、傾斜のある動く歩道（オートスロープ）での使用は、絶対に行わないでください。
- ・公共交通機関をご利用の際は、係員の指示に従ってください。



段の上がりかた

- 1 足元のティッピングレバーを押し出し、手押しハンドルを手前に引くようにして、キャストを段の上にあげます。



- 2 駆動輪（主輪）を段に突き当て、車いすを押しながら手押しハンドルを持ち上げます。
*無理な力による段差の乗り越えは、フレームの破損につながります。

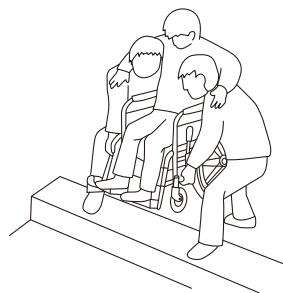
車いすに乗ったまま持ち上げる場合



警告

持つ箇所によっては破損や事故につながる恐れがあります。アームサポート、レッグパイプ、フットサポートなどは持たないでください。

車いすに乗ったまま持ち上げるときは2人以上で行い、使用者の上半身を支え、フレーム下部を両側からしっかり持ち上げるようにしてください。



段の下りかた

押し手とティッピング部分で車いすを支えながら、ゆっくり段を下ります。

*無理な力による段差の下りかたは、フレームの破損につながります。

*段差のあるところを下るときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり下ってください。車いすの破損や故障の原因となります。

本製品の廃棄については、最寄りの行政担当窓口におたずねください。

製造元

Wheel Chair
Miki

株式会社 ミキ

〒457-0863 名古屋市南区豊三丁目38番10号